

市長臨時記者会見 概要

- 日時：令和2年4月30日（木）午後1時30分から午後2時17分まで
- 場所：市庁舎5階第3、第4会議室
- 相手方出席者：神奈川新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、共同通信社、テレビ神奈川、ジェイコム湘南・神奈川、日本経済新聞社
- 市側出席者：市長 桐ヶ谷 覚、副市長 柏村 淳、経営企画部長 福井 昌雄、経営企画部担当部長 福本 修司、総務部長 田戸 秀樹、市民協働部長 岩佐 正朗、福祉部長 須藤 典久、環境都市部長 石井 義久、環境都市部担当部長 芳垣 健夫、教育部長 村松 隆、消防長 林 行雄
- 陪席者：企画課長 仁科 英子、広聴広報係主事 蛭間 幸実
- 配布資料

逗子市プレスリリース

- ・新型コロナウイルス感染症対策担当の新設について
- ・特別定額給付金（仮称）給付事業について
- ・（仮称）逗子市新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金及び（仮称）逗子市中小企業者等事業継続応援給付金を交付します
- ・（仮称）新型コロナウイルス感染症緊急対策基金の創設について
- ・逗子市立小・中学校における一斉臨時休業の延長について
- ・（仮）逗子市児童扶養手当受給者特別支援給付金を支給します

- 内容：下記のとおり

【企画課長】

定刻になりましたので臨時の逗子市長記者会見を始めます。

まず初めに市長から発言をさせていただきます。

【市長】

お集まりいただきありがとうございます。

今日は逗子市の新型コロナウイルス感染症対策について説明させていただきたく、ご案内いたしました。

まず、新型コロナウイルスに感染された方が、今日の新聞によりますと1万3,000人以上いらっしゃいます。また、治療の甲斐なくお亡くなりになられた方も400名以上おられ、大変な状況になってまいりました。その方々に対し、お見舞いとお悔やみを申し上げたいと思います。また、危険を顧みず、献身的に医療にあたっておられる医療関係従事者の皆様には心から感謝を申し上げます。

逗子市の対策を考える前に、私がこれまでの間にどのように新型コロナの状況を感じていたか、冒頭少しお話をさせていただきたいと思います。

私は、新型コロナウイルスが報道されてから、私自身も商工業をやってきたことから大変な事態になると感じていました。これまでに何度も市内商店街を歩いて情報を収集してありました。3月の初めにはこれは大変なことになる、事業者は資金の手当を急ぐべきだ、その指令を出してほしいと商工会事務局長等をお願いをしました。2月末から3月という時点ではまだピンときていない、事業主の方々にお話しをしても、さほど困り感がなかったというのが実感です。金融機関にも、地元の知人ですとか、信金さんには直接理事長をお願いをして、事業者の資金をお願いし、国からも来ていますので大丈夫ですとおっしゃっていました。自分の経験からして、既に借入れをしている借入金の繰り延べ返済をやっていただけかどうかということは、事業者にとって大変にありがたい資金手当てに代わります。湘南信金さんの理事長は、そこまでは考えていなかったけれどもすぐやるとおっしゃっていただいて、信金さんの体制の中に組み入れていただいたと思います。それぐらい、私自身は事業者の資金手当というものは大変な問題になってくると当初に感じていました。しかしながら、3月位は銀行、金融機関にあたって、「申し込みは無いですよ。逗子市の場合は申し込みが少ないです。」という話が多かったです。4月に入りましたら、市内の金融機関で申し込みが殺到してきているという話も聞いております。そして、国、県の方から自粛要請の出ている業種は、目に見えて事業が厳しくなっていることが分かります。まちの中を歩いて、さまざまところで経営状況が悪化してきているのを感じました。例えば、飲食と関係ないように見えて、お茶屋さん、そこは葬儀関係の納品等もやっており、飲食の業態の方々にお茶をご利用いただいているお店ですが、そこがほとんど商売になっていない。お花屋さんですと、3月の年度替わりで送別会ですとか、謝恩会ですとかさまざまある需要が今年はゼロ。そういったところにも影響が大変出てきております。中には、在宅で仕事をする関係で家での食事が増えたことから、テイクアウトをもともと主としているお店は忙しさが増しているという、業種によってばらつきが相当でているというのが実際でありました。この状況がいま日に日に厳しくなっている、その差がますます大きくなっていると感じます。

一方、社協の方にも行ってまいりました。小口貸付に例年になく申し込みが殺到しているとのことで、業種はどういう方ですかと聞きました。フリーのカメラマンやフィットネスの講師ですとか、ネイルサロン、エステ、美容室、カメラマンの方はブライダルに関係した方のようなのですが、結婚式そのものが取りやめという状況ですので、そういったフリーでお仕事をされている方々は本当に厳しい状況になっていると思います。いま、そういった中で何が自衛策としてあるのかということになりますと、業者の方は真っ先に金融機関や国のさまざまなセーフティネットを使って、どれだけどうやって資金を調達し有事に備えていくのか、それをまずは第一にやっていただく。そして、一般個人の方も例えば住宅ローンを組まれている方ですと金融機関は繰り延べする、一年間繰り延べ据え置きするという方式はとうに取っていますので、なんとか市民の方々にも個人で住宅ローンを組まれている方は真っ先に金融機関に行って、延納の手続きに入っていただきたい。そういう制度も今はだいぶ手厚

くできるようになってきております。そうやって非常時に対しては対応をしていただきながら、備えをどうしていくかというところだと考えております。

それでは、逗子市の対応につきまして説明をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策としては、一人10万円の特別定額給付金や子育て世帯への臨時特別給付金、生活困窮者自立支援としての住居確保給付金など各種給付金や地方創生臨時交付金などの関係予算が本日、国会で可決が見込まれております。また、神奈川県も事業者支援の取組みなど方針を打ち出しています。本市としても、こうしたことを前提に、必要かつ効果的な対策を講じていきたいと考えています。

○新型コロナウイルス感染症対策担当の新設について

皆様にお配りしております資料に、新型コロナウイルス感染症対策担当の新設についてというのがありますが、市の体制として、令和2年5月1日より、新型コロナウイルス感染症対策担当を経営企画部防災安全課内に新設し、相談窓口の一本化を図ります。

これまでも、生活支援、事業者支援など各担当所管で個別の対応を行ってきたところですが、市民の皆様がより相談しやすい体制をつくります。担当業務としては、新型コロナウイルス感染症対策の総合調整・総合窓口を担うものであり、一般的な相談のほか、市民、事業者への給付金制度、市税の徴収猶予などの相談を受けます。また、特別定額給付金の給付に関する事務を行います。

組織体制といたしましては、防災安全課課長補佐を統括とし、新型コロナウイルス感染症対策担当専任主査を置き、総務部、市民協働部、福祉部、環境都市部から事務従事職員を配置するほか、会計年度任用職員2名を配置します。相談窓口の設置場所は1階ロビーとし、市民の皆様が相談しやすい環境を整えます。

○特別定額給付金（仮称）給付事業について

次に、特別定額給付金給付事業についてですが、今国会に提案されている「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」で実施することとされたもので、感染拡大防止に留意しつつ、家計への支援を行うものです。

給付対象者は、基準日である令和2年4月27日に住民基本台帳に記録されている方で、給付額は対象者1人につき10万円となります。歳入歳出予算額は、3月末時点の住民基本台帳人口、5万9,500人及び国から示された事務費の目安額から算定し、60億1,452万8千円となりますが、全額が国庫補助になります。

給付金の申請方法は、感染拡大防止の観点から、郵送により申請書類を提出いただく方法と、マイナンバーカードを活用して行うオンライン申請を基本とします。申請手続きについては、速やかに申請書を発送する予定で、スピード感を持ってやっていきたいと考えております。

以上の緊急経済対策とは別に、逗子市としても必要な対策を講じていきます。予算規模としては、総額6億円を想定しています。対策を効果的に実施していくために、財政調整基金の現在高、12億7千万円のおよそ半分の額を目途に、予算枠として予定するものです。

○（仮称）逗子市新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金及び（仮称）逗子市中小企業者等事業継続応援給付金を交付します

その第一弾としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金及び中小企業者等事業継続応援給付金です。神奈川県内の休業及び営業時間の短縮要請に応じ、新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金の申請をしている逗子市内の事業者を対象としておりまして、逗子市としての協力金を20万円給付というものであります。

この他に、個人で事業をやられている個人事業主の方もたくさんいらっしゃいますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、売上等が減少するなど一定条件を満たした中小企業者及び個人事業者に、（仮称）逗子市中小企業者等事業継続応援給付金10万円を給付します。

これらの予算を措置するため、総額2億円規模の補正予算を提案し、議決いただけるよう準備を進めています。

○（仮称）新型コロナウイルス感染症緊急対策基金の創設について

また、新型コロナウイルス感染症緊急対策基金の創設についてご説明いたします。6億円のうち2億円で事業者向けの給付を準備しているところですが、残りの4億円については、新型コロナウイルス感染症の急速なまん延により地域経済及び市民生活に甚大な影響を及ぼしている状況に鑑み、これに対する地域経済対策、感染症予防対策等を確実に実施していくために、財政調整基金から繰入れることで、4億円規模の特定目的基金を設置します。また、市民や事業者等の皆さまからいただく応援の寄付も、基金に積んでいきます。

この基金を活用し、これまでの生活を取り戻したい、これまでの職場に戻りたいといった市民の方々の思いを支えていかなければならないことを強く心に刻み、市民の皆さまが置かれている現在の窮状に寄り添いながら、頼りになる行政として、福祉面、教育面、経済活動面等必要な支援を実施していきます。

○（仮）逗子市児童扶養手当受給者特別支援給付金を支給します

詳細はこれから詰めるということになりますが、その中で一つ確定していることは、（仮）児童扶養手当受給者特別支援給付金というものを準備いたします。これは、ひとり親であるため休校等によって仕事が出来なくなった方や雇用条件の急変によって収入が著しく減少した方が多数いることが想定されることから、逗子市ではひとり親家庭の生活の支援のために児童扶養手当を受給する世帯を対象に、特別給付を行いたいと考えます。これは令和2年4月分の児童扶養手当の受給者が対象になりますが、1人につき3万円を考えているとこ

ろです。

この他、小・中学校の給食費を一定期間、無償とすること、認可外保育園で登園を自粛する場合の保育料への支援、感染症拡大の影響で離職せざるを得なかった人への支援などの検討に取り掛かったところです。

4月28日には、議員の皆さまから新型コロナウイルス感染症対策に関する要望等をいただいたところですので、これを含め、市民生活の困窮の状況に寄り添って、適切なタイミングで適切な支援ができるよう、基金を活用して取り組んでいきます。

以上の取組みを進めるためには、基金を設置する条例と補正予算が必要となりますが、特別定額給付金給付事業と、学校から児童生徒の家庭に学習課題を送付する経費として補正をします小学校及び中学校の学校運営事業の3事業につきましては、緊急を要するため、5月1日に専決処分をする予定です。

この3事業以外の取組みにつきましては、臨時会、あるいは定例会で、議決を得られるように準備を進めてまいります。

なお、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金につきましては、これらの取組みに対応して申請していく考えです。

その他に、市税や国民健康保険料などの納付が困難な状況になっている方には、猶予等の相談に応じてまいります。

○逗子市立小・中学校における一斉臨時休業の延長について

最後になりますが、5月6日までとしていた小・中学校の一斉臨時休業ですが、逗子市教育委員会では、その期間を延長し、5月7日・8日も一斉臨時休業とします。今後の予定につきましては、国及び神奈川県との動向により、改めて判断いたしますことを併せて報告いたします。

以上です。

【企画課長】

それでは質疑をいただければと思います。

まずは幹事社からお願いします。

記者) 補正予算の総額はどれくらいでしょうか。

市長) 今現在は6億円を予定しています。6億円と、あとは国からの給付が加算されますので、それを含めた総額です。

記者) その6億円ですが、まずは財政調整基金を約半分取り崩して、6億円のうち2億円が2つの給付金に充てられて、残り4億円は基金として積み立てて、とりあえずこれからということですか。

市長) そこからひとり親家庭への給付ですとか、小学校の給食費ですとか、さまざまこれから詰めていくというところであります。

記者) 基金4億円ですが、市民からの応援も積み上げていくということですが、4億円プラスということですか。

市長) そうです。

記者) それでは額ははっきり分からないということですか。

市長) はい。

記者) 幹事社からは以上です。各社どうぞ。

市長) 補足はありますか。

経営企画部長) 今回、専決処分させていただく金額につきましては、特別定額給付金等ございますので全部で60億1,710万9,000円です。先程市長が申し上げましたのは、市として独自の施策として財政調整基金を6億円崩していく中での2億円を先に事業者向けの給付金に回して、残り4億円は基金に積み立てていくというものです。

記者) 協力金と給付金、20万円と10万円とがありますが、両方一緒に受け取ることもできるのでしょうか。

市長) それは切り離しです。同時に加算は出来ない、どちらか一方です。県の自粛要請に基づいて申請されたところはそちらをご利用いただく、その他の小規模事業者に対する給付金という考え方をしています。

記者) 個人事業者としてデザイナーとかインストラクターと書いてありますが、市長としてはどういった事業者をイメージしていますか。

市長) 私も歩いていろいろと聞いた中では、そういう風にして逗子にお住いの方がいらっし

やるのかと思ったのは、仕事は東京に行きながらフリーで事業を請け負っていて、お住まいは逗子という方。そういう方々は真っ先にいま職が切られている、無くなっている状況です。そういった方々がたくさんおられるということを感じております。いま考えているのは、売上げの2割が減少した場合、商工会に申請をしていただき、商工会で必要書類を確認しまして、確認できたところで逗子市の方に申請に来られるという流れを考えています。

記者) お仕事としては、フリーカメラマンといった方達も含むということですか。

市長) そうです。

記者) 今回、窓口を一本化するということですが、こういった応援金の相談も1階ロビーで構わないのですね。

市長) そうです。コロナに関するさまざまな制度のことは、まずそこでお話をさせていただく。そこには事業者向けのいろいろな相談もありますし、個人の方々の相談もあろうかと思えます。そこに行って、次には商工会に書類を持って行ってください、これを持って福祉の方へ行ってくださいという形で、まずはワンストップでその場で分かるような仕組みを作っていきたいと考えているところです。

記者) 午前中、葉山町でも同じようにコロナ対策の事業について発表があったのですが、多分長引くだろうということで、1回だけではなく額が少なくても長く続けていきたいと思うというお話があったのですが、逗子の場合は1回の金額が大きいのですが、お金もあまり無いですし、どうなりますでしょうか。この先も延長というか、もう1回くらいあるのでしょうか。

市長) まずは緊急を要する支出と、その後状況を見ながら一番困っている方のところにしつかりと行き届く仕組みを継続してやっていきたいと考えておりまして、もちろん複数回を想定しております。

記者) 昨日、一昨日あたりから緊急事態宣言の延長がされるか、されないかということが話題になっておりますが、それに対する市長のコメントがあれば教えていただけますでしょうか。

市長) 私も6日の連休明けに収束し、宣言が解除されるとは思えません。相当長期に渡るといって考えていかないと立ち行かないと庁内会議の時に再三私は申し上げております。長期に見据えておいて、短くなる分には前倒しすれば良い訳ですが、短期にしか考えず予想

外に長期だったということは避けたいと考えておりますので、ある一定期間になっても運営できる状態は準備していきたいと考えます。

記者) 長期化した場合、地元の店舗ですとか企業さんへの影響はさらに大きくなると思われませんが、そのあたりについて、どのようにお考えですか。

市長) 予測はし難いのですが、先程申しました、3月にはあまり申し入れがなかったが、4月になって増えてきた、3月に申し入れがなかった理由は二つ考えられると思います。一つは貯えがあるからうちは関係ないと思っている方、もう一つは廃業を視野に入れながら借りることは避けたいと思っておられる方、この二つだと思います。逗子市はもしかしたら廃業を視野にした個人事業主が多いのではないかという懸念を持っております。中には、お金をくれる訳ではないので、いくら無利子だ、無担保だと言っても、借りるから返さないといけない、自分の歳からするともう借りたくない、こういう方を多く聞きました。ですので、長引いた場合に、ガラッとまちの様子が変わってくる恐れがあると考えております。しばらく商店の方々の状況を見ながら、聞き取りながら、それに対して何が準備できるかを考えていかないといけないと思っています。ここに協力金と書いてある理由は、10万円差し上げたら経営が楽になるということにはならないからです。家賃の足しにはなりますが、これが支給されたから、1ヶ月2ヶ月の家賃が楽になったからありがたいと言われる金額ではありません。でも逗子で払える額はこの程度です。例えば2億円の内訳を申し上げますと、県の感染症拡大防止協力金に申請されて申し出るのはマックス400件とみました。小規模事業者は商工会員の数から700件とし、フリーランスの方が500件くらい来るのではないかと想定して、合計2億円となりました。10万円、20万円のお金が経営の危機を救うお金にはならないので、あくまで行政としても見捨てていないよ、一緒にがんばろうという応援資金という意味合いの給付と考えます。

記者) 緊急事態宣言の長期化に関連しまして、連休明けの学校の再開ですが、いつ頃お決めでなっていて、どのような方針で考えていかれますか。

市長) いろいろな予測が出ておりますが、5月末までは延びるのではないかと感じております。子どもたちも学校から離れ、さまざまな影響が大変なところに来ているというのは実感としてあります。教育委員会を中心にしっかりと子どもたちのケアができるように、また、さらなる休業が続くということも想定に入れなければいけないわけですから、連休明けは待ったなしに子どもたちの教育の体制の構築に取り掛かっていかなければいけないと考えているところです。

記者) 長期化した場合の対応ですが、いまは財調を崩してということで対応されていますが、

どんどん長期化していくと、それも陰りが出てくるのではと思うのですが、そのあたりについて、例えば国からの支援が欲しいとか市長はどのように感じておられますか。

市長) 逗子市が単独でできる範囲はここが限界だと思います。これ以上財調の取り崩しは経営的に厳しくなると考えます。それ以外は、例えば経産省にしろ厚労省にしろ、さまざまな施策を矢継ぎ早に打ち出してきていますので国との連携、県との連携で市民の生活をいかに守っていけるかしっかりとサポートできるようにしたいです。例えば、経産省のホームページを見ている、日々更新をされながら70ページにも及ぶような通達が入っていて、これがどこの誰にどういう風に適合するのか、膨大すぎて読みにくい分かりにくい状況です。ああいったところを上手に掌握しながら、逗子市の事業者にとってはこう、市民にとってはこうということをしっかりと細かく対応していける体制を作っていきたいです。明日から相談窓口を設置しますが、人数的には十分だとは思っていません。まず設置することで市民の方々がどういう相談事に来られるか、それによって次の体制を考えていかなければいけないと考えます。やりながら、体制を変えながら走り続けるということになろうと思います。

記者) 先週がけ崩れがありまして、また不幸にもお一人亡くなられたのですが、今回のケースは公道に面したところではなく、海岸にしても市の持ち物ではないですよ。人が亡くなるのは残念なことですが、行政を預かるお立場としてこういう事故をどのように防いだら良いか、相当腐心されているとは思いますが、今回の事故を受けて、呼びかけなり発信なりがあるか伺いたいのですが。

市長) 本当に残念な事故が起こりまして、お悔やみを申し上げるところではありますが、昨年から立て続けにさまざまながけ崩れが発生しています。昨年5月のロードオアシスは幸いにして人的被害はなかったのですが、今年2月の事故、そして今回もまさかああいったところでという事故です。現場を見ましても木が茂っている状態の場所が一瞬にして崩落するという、そこが予見できたのかとなくなってきますと大変に厳しい状況です。2月の事故以来、市道に接する崖地というものの点検はさせていただきました。しかし、それ以外のところはあまりに広範囲でして、しっかりと掌握できる状況になっていない。かといって全てが危険で通行止めという訳にもなかなかいかずに、この件に関しましてはもう一度点検の仕方、その他も含めて検討をしてまいりたいと考えているところです。

記者) 家にいなさいということがあって、そうは言っても近隣の散歩くらいはという中で、危険だから通るなと行政としては言いたいことは分かるのですが、散歩は個々で気を付けてもらうしかないのでしょうか。

市長) 注意の仕様がなと言いますか、よもやあのような所があのような崩れ方というのは想定できない。一瞬にしてある一面のところ spans と落ちてきた状況でありました。

記者) 海岸の方で先週ですとか、他府県から人が流入してというお話がありましたけれども、今現在の状況をどのようにお考えになっていますでしょうか。

市長) 4月19日の日曜日、前日が荒れた天気でありまして、翌日が大変すばらしい天気になった。こういった気分的なもの、また自粛疲れから殺到したんだと思います。この時は海岸もすごい人、道路もすごい状態でありまして、特に海岸につきましてはバーベキューを数多くやられて、ごみもうず高く積み上げられ、大変な状況になりました。葉山町、鎌倉市から呼びかけがあつて、相模湾一帯で知事に要請に行こうと火曜日の夕方連絡がありまして、水曜日の10時半という時間に知事への要請の時間を取っていただけました。午後の知事の記者会見で皆さんご存じのとおり、湘南には来ないでというメッセージを寄せられました。結果は、土曜日と日曜日に私も海岸を見ましたけれども、土曜日でもガラガラで、60人か70人、100人はいなかったという状況です。車も藤沢、鎌倉、逗子、葉山で2時から4時の同じ時間に134号を定点観測すると申し合わせでやりました。そこに私も立ち入ってずっと見ておりましたが、二人でナンバーを見分けて一人は記録するとしませんと、スピードが速い、それくらい順調に流れていました。当初は渋滞だから一人で見て記録すれば十分だという話でしたが、すごいスピードでビュンビュン通り過ぎる、そんな状況の中でこの土日は過ぎました。昨日も市内を歩いて海岸も見ってみました。海岸を通ったのは4時くらいでしたが、数えられるくらい、約100人とみえました。車もガラガラ状態で、市内も誠にすいていて渋滞が感じられない。先週半ばの知事の発言が全国にも伝わり、今はそういう状況が維持されております。ありがたいことだという風に思います。問題はこの先のゴールデンウィークがどこまで自粛の考えが浸透して維持していただけるのかということが気がかりではありますが、日本人の心意気を期待するということなのです。

記者) 関連して、一日のうち短時間であれば多少散歩をするのは良いというような感じになっているかと思いますが、逗子市内は大きな公園ですとか道路も狭いところがありますがけれども、海岸も含めて市民にこんな風に運動量を確保してもらいたいのですとか、過ごしてもらいたいということがあったらお願いします。

市長) いろいろな場所で運動のやり方はあります。時間帯をどう前後させるか、散らすかというところですね。スーパーの混み具合を聞きましたら、午前中に集中するんですね。スーパーの方では夕方は特にすいていますとおっしゃられます。市民の心理として早いうちに行かないと買い物が出来ないと思って、皆さんそこに集中して混みあう中で買い物をされている状況です。運動にしましても、私はいつも朝が散歩の時間だと言って固定になっている

かもしれませんが、そこをちょっとずらしていただくならば、かなり分散できると思います。ですからスーパーの買い物、運動、散歩、ジョギングを含めたそのようなことをどの時間帯が一番すいていて良いのか、これが真夏ですと熱中症の問題で昼間は走れないですとか、運動できないということがあるかもしれませんが、今のこのシーズンであれば時間帯を上手に配分しながら混みあわない、密にならない状態をそれぞれ工夫していくかというところだと思います。

【企画課長】

それでは以上で臨時の記者会見を終了いたします。

どうもありがとうございました。